

琉球大学学術リポジトリ

肥料の上手な使い方

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金城, 俊明 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19632

- 2 深耕したり、堆肥を適宜ほどして土の理學性をよくし、下葉の伸びをよくする。
- 3 六一八月の地下茎の伸長期に速効性の硫酸や人糞尿をうすめて数回に分施し地下茎を太らせる。
- 4 細い管馬な竹や病害竹や老竹は伐採し白質の若竹をのこして生長をさかんにする。
- 5 伐採は伐期令の竹(細竹二三年生、大竹種四一五年生)を秋冬の間に行う。伐り過ぎて土を乾燥させて雑草を茂らしたり、密すぎると生長が抑えられることがない程度にする。
- 6 竹苗は芽を多くつけた若い地下茎についた生育のよいもの

肥料の上手な使い方

- 7 加工用竹は大きくて長い程白質で加工能率も上るので防風林を利用したり、栽培面積を広くまとめるなど風害りを柔らけて大きく高い竹の生産に努める。
 - 8 タケノコの生産の場合には特に表土がぼけて土のしめりもよい所を選んで、しばしば施肥すれば白質のものを多量生産出来る。
 - 9 落葉採集を考慮し、敷草、粗な伏等で表土の流去や乾燥を防ぐことも大切なことである。
- (大 山 保 表)

作物は動物と同じ様に命を持つた生き物であり、土と空気から栄養物のもとになるものを吸収して成長し、生命を維持して居るので、空気中の栄養源は無量であるので作物栽培上問題になりませんが、土中の供給源には限度があり、殊に油桐のように竹中作物を栽培している所では重大な問題となつてきます。私達が作物を収穫することにそれに要した養分量が土中から取り去られる訳で、特に作物に最も多く必要とされる窒素、燐酸、加里の三要素の不足が著しくなり、作物の成長が悪くなつて来ます。それでこれらの三要素を供給するために肥料を施す必要が生れてくるのです。他にも作物の成長に重要な要素がありますが、微量しか必要としないのでその供給は余り重大視されて居ないのです。しかし油桐では微量要素の問題もおろそかに出来ません。

では自分の畠の肥よく状態をしらべることにしましょう。それにはいろいろの方法がありますが、その中で土じょうとその土じょうに栽培されている作物を分析することが最も正確であるとされています。土じょう分析をすれば作物が必要とする各

要素が土中どの位あるか大体分りますので、施すべき肥料の種類及びその分量を決めるのも容易になります。しかし残念ながら油桐ではまだ個人の畠の土じょうを分析して、その結果によつて肥料対策を講ずる方法はとつて居りませんので、土じょうの性質又は作物の外観を調べることに依つてどう言つた養分が不足しているかを推定するより外に道はありません。

土じょうの性質を調べて次の様なことが一般的に云えます。

- 一、土じょうが砂土で薄灰色をなし、有機物が少なく酸性(PH六・五以下)であるなら、窒素肥料が必要である。
- 一、土じょうが強酸性(PH五・〇以下)或は強アルカリ性(PH八・〇以上)であり、可溶性鉄分を多く含み、粘土質で有機物の含量が少ないと、普通燐酸が必要である。
- 一、土じょうが殆んど泥炭か砂土であつたり、石灰岩から出来たり、或は有機物が少なく雨の多い所では、加里が必要である。

次に栽培している作物の葉の外観や作物全体或は一部分の生長率とその様子などの肥料要素が不足しているかを見極め、役に立つ事柄を二、三上げますと、

- 一、作物の成長が遅く、葉が薄緑となり下葉の方は葉緑



写真説明
向つて右から、無窒素区、無燐酸区、無加里区、標準区(中央農研所にて)

素をすつかり、失つて焼けたようになりたり、或は成熟しないで実を結ぶ場合は窒素が不足している証拠である。

一、作物全体がいつていて葉が異常に濃い緑を呈したり、トマト等の葉の裏葉柄が紫色がかつている場合、或は穀類の成長が遅く収穫が少ないのは磷酸が不足しているためである。

一、麦や玉蜀黍の葉脈の間の色があせ、葉の周囲が枯れたようになりたり、豆類の葉に白い円い斑点が出来たり、或は馬鈴薯葉がしばみ周囲が葉裏の方にまがつていようなものには加里缺乏の状態です。

以上は窒素、磷酸、加里の三要素が作物に不足した時の症状を簡単に述べたのですが、それは作物の種類や土じよの性質によつて幾らか違つて来ます。私達が常に留意しておかねばならぬことは缺乏の症状が現れた時は既に収量が減じていると云うことです。それで缺乏の症状が現れてから肥料をやつてはおそすぎますので、その土じよの性質やこれまで栽培してきた作物を考慮に入れて事前に肥料を施し、かような症状が起らないようにしましょう。

肥料と一口に言ひましても緑肥、堆肥、廐肥、下肥、化学肥料(金肥)等といろいろありますが、これ等を大きく分けますと自給肥料(緑肥、堆肥、廐肥、下肥等)と購入肥料に大別されます。

収納整理のための家具

農家と木工業

合理的な住い方として、便利な戸棚や挿入が工夫されているが、また一般的には、六工まかせの既成家具や挿入が習慣的に使われている。

本来、家具は住宅空間をより機能的に駆使するための道具で

自給肥料は肥料成分の含有量は少なくして纖維その他の有機質を多量に含むものが多く、畑中の細菌の作用によつて分解され除々に可溶性の養分となり作物に吸収されます。

自給肥料を多量に施すことによつて、地力を維持或は増進することができまが、それと同時に作物の根がよく成長発達するように土じよを改良し、可溶性養分の流失を防ぎ、土じよの水保ちをよくすることができまが。自給肥料にはかような利点がありますし、経費もかかりませんから、なるだけ多く土じよに施して生産を上げるように努めまがしよう。

購入肥料は主に無機質で作物にすぐ吸収されますので、自給肥料に較べて効果が速いものです。

琉球で輸入しているものには硫酸、尿素、過磷酸石灰、塩化加里等があり、ハイボスカが島内で製造されています。

硫酸と尿素は窒素肥料で、金肥として施される三要素の中で最も速く、目立つた効果があります。

窒素肥料が作物に及ぼす影響を上げまがすと、
一、作物の池上部の葉茎の成長を促進し、葉に濃い緑色をつける。

一、穀粒の丸みを増し、蛋白質のパーセントを高くする。

一、加里、磷酸、その他の成分の利用を或る程度左右する。

一、葉野菜等に望ましいみつみつさを増す。

窒素肥料は効果の上るのが速いので野菜類以外の作物にも必要

以上に与える傾向がありますから注意しなければなりません。窒素肥料が多過ぎた場合の害は三要素肥料の中で一番大きいのです。その害の主なるものは次の通り。

一、葉茎の成長が助長され成熟が遅れる。

一、穀類では茎が弱く、倒れやすくなる。

一、果物や穀物の質を下げる。

一、病気に對する抵抗力が衰える。

磷酸肥料には過磷酸石灰やハイボスカ肥料等があり、作物に及ぼす影響は、

一、横に伸びる根毛の発達を促す。

一、特に成熟を速める。

一、開花、結実を左右する。

一、病気に對する抵抗力を増す。

磷酸肥料は穀類や果物の栽培には絶対必要なものです。

加里肥料としては塩化加里や木灰等があります。加里が作物に對する作用は、

一、植物内の糖分の移動と澱粉の生成に無くてはならぬもの

一、病気に對する抵抗力を増す。加里肥料は芋類のような球根を持つ作物には絶対必要なものです。

以上作物と肥料の關係を簡単に述べましたが、施肥する量は作物や土じよによつて違いますので、農業改良普及員の方によく御相談なさつて下さい。

(金城俊明)

そのためには、室内での人間の動態や動線のこと、視覚上の問題、経済上の問題を相互に有機的に關係つけて考察し、デザインされなければならぬ。

まず人間動態の面から、棚の在り方としては、第一に動作の生理的合理性と心理的妥当性の考慮が必要である。

例えば、収納整理に當つて、最も生理的に起つてくる動作は腕・手の運動と視野の問題である。この二つが不合理的であると、体全体が屈伸しなければならぬという努力の不経済さが常にくりかえされる。

あつて、ともすれば逆にはたつていて、生活より複雑にすることもあるので、「独立した家具そのものでなく住宅の一部或は部分としての家具」といふような考え方ではなからぬ。